

北海道帯広盲学校支援部だより

第 64 号 令和 6 年 (2024 年)

connect

つながろう・つなげよう

9 月 27 日 (金) 発行

〒080-2475

帯広市西 25 条南 2 丁目 9 番地 1

TEL 0155 (37) 2028

FAX 0155 (37) 3768

学校ホームページ <http://www.obihiro-sb.hokkaido-c.ed.jp>

十勝管内 各関係機関との連携

今年度は、数多くの市町村に直接訪問し、連携を深めさせていただいております。ここまで広域に直接訪問させていただくのは**令和元年度 (2019 年) 以来**となります。コーディネーターとともに療師校長自ら訪問し、本校の教育内容や視覚障害教育のセンター的機能についての話を中心に説明会を行っています。その中で、今号では十勝管内の音更町・陸別町・池田町・広尾町・大樹町・更別村・中札内村・土幌町・上土幌町・足寄町との連携についての内容を掲載させていただきました。(文責 土屋)



↑ 音更町第一子ども発達支援センターでの説明会



↑ 陸別町教育委員会での説明会



↑ 池田町発達支援センターでの説明会



↑ 広尾町教育委員会での説明会



↑ 大樹町教育委員会での説明会



↑ 更別村教育委員会での説明会



↑ 中札内村教育委員会での説明会



↑ 音更町教育委員会での説明会



↑ 土幌町教育委員会での説明会



↑ 土幌町こども発達相談センターでの説明会



↑ 土幌町教育委員会・子ども発達支援センター説明会



↑ 足寄町教育委員会での説明会

連携後のアンケート欄から

- ・盲学校の校区があまりにも広く驚きましたが、手厚い教育をされていることが良くわかりました。保護者面談等でも情報提供できると思います。
(広尾町教育委員会)
- ・この度、改めて帯広盲学校の説明を聞く中で現在の帯広盲学校の状況や教育活動を知ることができ大変有意義な時間となりました。
(更別村教育委員会)
- ・帯広盲学校の教育内容やセンター的機能の説明でしたが非常にわかりやすかったです。(土幌町教育委員会)
- ・見えにくさが体験できる眼鏡を着用し弱視のお子さんがどのように見えているのかがわかりました。書字についても盲学校の教育相談を受けることができるとのこと今後の参考になります。
(池田町発達支援センター)
- ・今回盲学校の状況や支援の内容など、今まで知らなかったことも知ることができ、良い機会となりました。ビジョントレーニングや目と手の協応動作を促す動き、視野を広げていくための目を動かす練習など視覚的に必要な支援も多いので、そのような参考にさせていただけるような研修などをもし開いていただければ参加させていただきたいと思いました。発達に関しても障がいの特性なのか、見え方なのか迷われている方や見え方に心配されている保護者さんも少なくないと思いますので、盲学校の取り組み存在、認知度が広がると良いと思いました。
- ・ビジョントレーニングの進め方や、実際に有効な教材などの研修があれば是非、参加させていただきたいです。
- ・保護者が盲学校について知らない場合や、無料で相談できることを知らない方も多いので、認知度が増えると思うと思います。
- ・定期的に研修等の機会があると、知識を上げたり、深めていけると思うので、可能な限り行えるとありがたいと思います。
- ・幼い頃から見えにくいと自分で見えにくさに気づくことが難しいので、周りの大人が気づき、教育相談につなげていくことが重要になると感じました。特に支援センターでは見え方に困難を抱えているお子様がいる可能性も高いと思うので、盲学校さんが身近な存在になっていただけると安心です。
(音更町第1子ども発達支援センター)
- ・普段から学校だよりの送付や学校公開の案内等を送付していただいていることで在籍していたお子さんのその後も少し知ることができるのでいつも読んでいます。チラシ等を配布していただいていることで、色覚異常の疑いがあったお子さんについて保護者へ盲学校さんの利用をスムーズに促すことができました。毎年来所していただいて恐縮ですが継続していただくと大変ありがたいです。
- ・当町の子どもの帯広盲学校への教育相談の申し込みが少ないという現状を知り、私たち支援者が“見えづらさ”に目が向いておらず、見落としていることがあるのではないかと感じました。実際に保護者の方が子どもの視力の問題に気づき、子どもが眼鏡を使用し始めてから「この子は実はあまり見えていなかったかも・・・」と振り返って思うことも時々あります。子どもたちの課題への取り組みの中で何が達成の支障となっているのか、色々な可能性を探り、見極めつつ必要な支援につなげていけるようにしたいと感じました。盲学校の先生方が定期的に訪問してくださることで、支援する側が見え方の問題に対して敏感でいられると思いますので今後も連携させていただきたく存じます。
(南十勝こども発達支援センター)